

令和3年1月5日

京口門だより No.87

新しき年を迎えお慶び申し上げます。今年も昨年からの新型コロナウイルスが一向に収まる気配なく、年末年始と例年にない状況で新年を迎えました。さまざまな行事も中止となり。自粛のせいか人と顔を合わせて話をするのが、とても貴重なことのように思います。コロナウィルスが変異して感染しやすいものになっているという情報もあります。ワクチンも使えるようになり、日本でも2月頃から投与できるようになるとか、早く流行が収まることを願うばかりです。「年新らし雲の彼方に雲流れ」(宮川和巳)

年の初めにお灸の話をしたと思います。お灸とは、ヨモギの葉裏の細毛を乾燥して作ったものであり、黄白色をした繊維質の綿状のものが作られます。通常はこれを米粒大にもみ固めて、灸点(ツボ)において火をつけて燃やします。小さいお灸なら60~100°Cくらいの温度で燃焼します。こうしたヨモギの毛を用いた灸療法は歴史が古く、紀元前7~8世紀(2500~3000年前)古代中国で用いられたと言われていています。長い経過をへて経験を積んできた治療法です。一種の皮膚に火傷をおこす治療法ですから、よくわからない人は野蛮な治療だと言います。確かに小さなヤケドを起こし水ぶくれができますが、それがもとで感染症や大ヤケドを起こすことはありません。決して野蛮でもなく多くの経験

をふまえた治療法です。

とくに痛みを伴う病気にはよく用いられます。たとえば坐骨神経痛、脊柱管狭窄症、変形性膝関節症など、毛嫌いせずにお灸を続けられる人は、現代医学的な治療よりも効果的と言えらると思います。脊柱管狭窄症は早い時期にお灸をするだけで完治した方もおられます。また脊柱管狭窄症に加えて、腰椎すべり症、変形性腰椎症を伴った方でも、灸療法と漢方薬にて、外科的手術をせずにより改善した方もおられます。変形性膝関節症も灸療法と漢方薬の併用により多くの方がよくなり、日常生活が不自由なく過ごせるようになります。また、手指や足趾の腱鞘炎も早い時期なら、灸療法で短期間で良くなりますし、慢性化したものでも、続けて灸療法をおこなえば、痛みなく作業ができるようになります。或いは痔疾や痔瘻という厄介な病気にも、腕や頭部のツボに灸療法をすることで手術を避けることもできます。

痛みの病気ばかりでなく、内科的な病気でも灸を続けることで、免疫力を高めて病気の改善に役立ちます。どうか先入観を持たずにご相談下さい。

